

‘Speak’, ‘Talk’, ‘Say’, ‘Tell’ の用法に関する 講義用資料の提案

川 島 紀 美[†]

Examples of Classroom Materials for Teaching the Usage of
‘Speak’, ‘Talk’, ‘Say’ and ‘Tell’

KAWASHIMA Kimi

Abstract

Beginning level learners find it difficult to understand and master usages of basic words, such as ‘listen’, ‘hear’, ‘speak’, and ‘talk’ - often, more so than advanced and technical vocabulary. Even among higher level and advanced learners, these seemingly basic and elementary words are mistakenly used. As an English instructor, one is challenged when having to explain the usages of these basic terms - especially their subtle nuances and differences. In this paper, I have chosen four verbs - ‘speak’, ‘talk’, ‘say’ and ‘tell’ because these words are at the core of English communication. A discussion of the problems and an example of handout worksheets are presented that may alleviate some of the problems encountered in the classroom. As an English teacher, I often struggle with teaching the usages of basic words, however, this challenge must be faced. It is hoped that the reader can apply some of the ideas in this material and share feedback in developing better pedagogy for the classroom.

[†] 大阪産業大学 全学教育機構 非常勤講師

草 稿 提 出 日 6 月 1 日

最 終 原 稿 提 出 日 6 月 18 日

はじめに

人間の言語活動において、聞くことと話すことは、極めて重要です。従って、この言語活動にまつわる基本的な単語も重要であることは、ここで改めて言うまでもないと思います。しかし、あまりにも日常的だからでしょうか。この二つの言語活動にまつわる語句の用法をわかりやすく丁寧に説明するとなるとなかなか容易ではありません。特に、入門レベルから初級レベルの学習者にとっては、習熟がむづかしいように見受けられます。

もちろん、長年英語の研究指導に携わってきておられる先生方であれば、ご自身で用いることはもとより、指導に関しても何の造作もないことと推察します。しかし、やはり、自身が用いることと、学生たちに指導をすることとは、次元が異なることのように痛感しています。

そこで、この講義ノートでは、特に「話す」にまつわる代表的な基本単語、speak, talk, sayそしてtellを取り上げます。そして、対象者は初級レベルの学生を念頭に置いており、大学等で用いることを想定しています。従って、これら4つの語の違いを理解できるよう解説を加え、さらに練習問題を付して作成してみました。

ただ、これはあくまで一つの講義案にすぎません。一つのたたき台として用いながら、まだまだ改良を加え、充実させて行きたいと思っています。

それでは早速、授業で用いることをイメージして、進めてまいります。言葉使いは、通常の授業で筆者が用いているものとはほぼ同じものを使用しています。あらかじめご了承ください。

「話す」という言語活動

日本語で「話す」に相当する単語には、‘say’、‘speak’、‘tell’、‘talk’などがあります。そして、やはり形が違えば意味が違いますから、それぞれの単語の微妙な違いを意識しながら英文を読み、書くようにすればさらに英語の学習が楽しいものになります。ここでは今挙げた「話す」を意味する4つの単語それぞれの違いを見ていくことにします。練習問題をところどころに設けてありますので、違いを意識しながら学びを深めていきましょう。

1. ‘Speak’ or ‘Talk’

日本語でも、やはり「言及する」「述べる」「しゃべる」等で微妙にニュアンスが違ってくるように、英語でも単語が異なればニュアンスが違ってきます。その違いを意識して話せ

ば、それだけ効果的なコミュニケーションが図れますね。そこで、まず ‘Speak’ ですが、‘Speak’ は声を発することそのものに重点があります。一方の ‘talk’ は誰か聞き手がいて話す場合に用います。例を見てみましょう。

‘Speak’ の用例

- 例 1 I sometimes speak in a loud voice in the crowd.
(雑踏の中では時として大きな声で話します。)
- 例 2 When I explain Japanese culture to foreign visitors, I often speak with gestures.
(外国のお客様に日本文化を説明するとき、よく私は身振り手振りを交えて話します。)

‘Talk’ の用例

- 例 3 When we first met, we were talking about our hobbies.
(はじめて会ったとき、私たちは趣味について話し合いました。)
- 例 4 I don't have enough time to talk on the issue right now. Let's talk sometime.
(その問題については今話し合う十分な時間が無いんだ。今度話そう。)

上記の用例からもわかるように、‘speak’ には必ず発声が伴います。たとえば独り言をいう場合にも、I sometimes speak to myself. と言えば、声に出してブツブツ言っているイメージが浮かびますが、これをもしI sometimes talk to myself. と言ったとしたら、どのようなイメージが浮かびますか？ この場合には、自分と対話をしているということになります。自問自答する時を考えるとイメージしやすいと思います。つまり、talkを用いるときには、相手がいて「対話」をしているわけです。

それでは実際の会話に取り組んでみましょう。

1. 次の会話のカッコにspeakまたはtalkのいずれかを必要なら適当な形に変えて入れましょう。友人同士の対話です。

A : Hi! How're you doing?

B : I'm OK. I just finished making a speech this morning.

A : Oh, did you? Who was the audience?

B : I (a) for environmentalists in Kyoto.

A : Sounds good. What was the theme?

B : I talked about eco-friendly cars. And I ...

A : If you are not in a hurry, why don't we (b) over a cup of coffee?

答え a. spoke b. talk

2. 上記の対話を日本語にしてみました。カッコについてはこの対話の雰囲気にあった日本語にしてみてください。自然な対話を心がけましょう。

A : やあ！調子はどう？

B : まあまあだよ。(c)。

A : そうなんだ。誰が聞き手だったの？

B : 京都で環境保護論者の人たちに話したんだ。

A : いいねえ。それでテーマは何？

B : 環境に優しい自動車についてスピーチしたよ。それでさ、...

A : もし急いでいないんなら、(d)？

訳例 c. ちょうど今朝スピーチを終えたところだよ。

d. コーヒーでも飲みながら話さないかい？

3. 以下の対話は学校の先生と生徒の対話です。カッコにspeakもしくはtalkのいずれかを入れましょう。そして何度か読んで練習しましょう。ここでは実際に声に出すこと(Speak)が大切です。

T : Do you have any questions? If you have, raise your hands. You are very quiet.
What's wrong? Come on and (e) up!

S : We'd love to, but we can't.

T : Why not?

S : Because we are so hungry that we cannot (f) any more. We were running for 30 minutes in a PE class this morning.

T : I see. Then we are wrapping up in 5 minutes. Before finishing today's class, let's (g) about the excursion we are going to have next weekend, shall we?

答え e. speak f. speak g. talk

2. ‘Say’ or ‘Tell’

それではsayとtellを見ていきましょう。もちろん、どちらも「話す」ですが、sayは会話によく用いられ、その状況を生き活きと描写します。またsayは話の内容そのものに重点を置いています。一方のtellは情報を伝えることに重点をおいています。そして、事物や人を見分ける、区別・識別するときにも使います (cf. I can tell the difference between plum and prune.)

1. 次の会話のカッコにsayまたはtellのいずれかを、必要なら適当な形に変えて入れましょう。友人同士の会話です。

A : I have a secret (giggle, giggle) .

B : What do you know? Please (a) me.

A : All right. A friend of mine (b) to me, “ Your father once loved our teacher.”
And I (c) , “Really? Woo, that is a scandal.”

B : Oh, it really is. She is still beautiful, so there is no wonder.

A : Yes. My father wanted to marry her, but she was already engaged then.

B : Oh, that’s too bad. And what happened?

A : Then, my father proposed to my mother.

答え a. tell b. said c. said

2. 上記の会話を日本語にしてみました。各自、sayとtellのニュアンスの違いを味わってみてください。

A : 私、秘密をひとつ知ってるんだ(クスクス)。

B : 何を知っているの? 教えてよ。

A : いいわよ。友達が言ってたんだけど、「君の父さん、僕たちの先生のことを好きだったんだって」ってね。でね、私言ったのよ。「ほんとなの? うわ、それはスキャンダルよね」って。

B : 確かにそうだね。先生、今でも綺麗だもん、不思議はないよね。

A： そうなのよ。父さんたら、先生と結婚したかったんだけど、すでに先生は婚約してたんだって。

B： それは残念。それでどうなったの？

A： それで、私のママにプロポーズだってさ。

3. それではもう一問。次のカッコの中の動詞から文意に合う方を選択しましょう。

(1) He uses a lot of words to (tell, say) very little. (彼は言葉をいろいろ使うが、ほとんど何も言わないのと同じだ。 - 『英語類義語活用辞典』最所フミ著p. 364参照)

(2) Don't (tell, say) him this. (この情報は彼に知らせるな。 - 『英語類義語活用辞典』 p. 364参照)

答え (1) say (2) tell

まとめ

以上のように、'say', 'speak', 'tell', 'talk' のニュアンスの違いを、学生たちに伝えるには、やはり用例を数多く提示して行くのが良いように思います。今回の講義案ではまだまだ用例が足りませんので、今後、さらに増やして、もっと理解しやすいものにしていきたいと思っています。

いくら言葉で違いを説明しても、なかなか使えるようにはならないものです。何度も失敗を繰り返しながら、対話をしていくことで、言語は身につけていくものですから当然と言えます。残念ながら、日本で暮らしている学生は、常日頃から英語を使う環境にはおりません。そのような状況でも、用例を通して理解を深め、またクラスメートとの対話練習をすることで、ある程度はニュアンスを感じ取りつつ、徐々に習得していけるものと期待しています。

英語を外国語として学んでいる日本の学生達にとって、やはりクラスルームは貴重な学習の場であることは間違いありません。そこから、さらに各自の努力と創意工夫で、英語を身につけていってほしいと切に願っています。 以上